

第2次愛荘町地域福祉活動計画 取り組みの総括

令和4年3月31日

対話から始める地域福祉活動(第2次愛荘町地域福祉活動計画)各プロジェクトの総括

平成29年度から令和3年度を期間とした第2次愛荘町地域福祉活動計画は、5つの基本計画をプロジェクトとして取り組み、推進会議を延べ119回開催し、推進委員延べ163名の参画のもと、課題検証から先進地への視察研修、具体的な事業・活動の企画まで話し合ってきました。

見守りネットワークプロジェクトでは、身近な地域での見守りを地域ぐるみの活動として、地域の福祉関係者同士での情報共有や訪問活動を継続するなか、自治会に加入していない世帯や見守りサポート会議未実施の自治会に丁寧に関わることが大切であることが見えてきました。

くらしサポートプロジェクトでは、身近な福祉問題を行政や福祉関係者のみで対処するのではなく、同じ地域に暮らす住民とともに考え対応するための方策を話し合いから進めていくとともに、「つながり」を創出する居場所づくりを推進していくうえで必要なことを整理し、コロナ禍でも活動を展開していくきっかけをつくることができました。

ボランティアセンタープロジェクトでは、第1次愛荘町地域福祉活動計画から引き続きボランティア啓発と参加促進を中心に、生活支援活動・チョボラ体験・活動者と受入機関とが交流するなど様々な活動を通じて地域福祉を支える組織として発展してきました。

福祉教育プロジェクトでは、子ども達の「福祉の心」を育むため、小中学校の総合学習と連携し、継続した関わりができるよう福祉学習メニューを学校教諭向けの冊子を作成するとともに、懇談や意見交換をおこなうなど企画調整から関わるスタイルを確立しました。さらに、地域において「障がいへの理解」を広めるための話し合いを始めました。おたがいさまの福祉活動を拡げる第一歩として踏み出したところです。

地域を守る災害支援プロジェクトでは、住民による災害支援ボランティアを養成し、自分たちのまちを守る災害ボランティアセンター構想のもと、ボランティアとともに訓練活動を始めました。一方、地域類型の特徴からモデル地区2箇所の住民とともに、福祉の視点で災害に対する共助活動について話し合ってきました。災害時要配慮者への対応は、地域活動として、今、求められている福祉防災の取り組みにつながってきました。



これらプロジェクトで進めてきた取り組みは、町内の福祉課題に対応する先進的・先駆的な地域福祉活動の事例を住民主体の福祉活動として、住民や福祉関係機関・団体、福祉の専門職と一つずつ丁寧に議論を重ねてきたからこそその成果です。

新型コロナウイルスが世界中にまん延し、人との交流の制限や住民活動によるサロンなど居場所活動も休止し、人と人とのつながりが変容してきているように見受けられます。


さらには、社会経済活動の長期的な影響により生活困窮世帯の増加など、複雑かつ多様な福祉ニーズへの対応は、住民や福祉関係者の支援だけでなく企業やボランティアなどの多様な活動者の関わりによる支援が必要となっています。引き続き、課題解消において継続した取り組みを進めるため、第3次愛荘町地域福祉活動計画を策定し、地域福祉活動を計画的に推進していくことが必要であります。

【見守りネットワークプロジェクト5年間の取り組み】


◇1年目(平成29年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★推進委員で先進地の視察研修に出かけるなど、プロジェクトの目的を共有しイメージづくりをおこないました。</p> <p>「SOSを発信すること、SOSをキャッチすることが大切である。」</p> <p>★愛荘町の地図上に各自治会で取り組まれている見守り活動などを見える化しました。</p> <p>★みんなが気軽にできる活動の検討。</p> <p>＊あいさつは誰でもできる活動であり、町内で運動として広めることはできないかと考えました。</p> <p>啓発グッズを作成してみてもどうかとの意見が出てきました。</p> 	<p>★町内の見守り活動などは、どのようなものがあるのかをマップに整理しました。</p> <p>★社協事業(プロジェクト関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき見守り訪問事業 毎月第1・第3木曜日に地域の皆様と協働して自治会単位での見守り訪問活動を実施。 15自治会で65名の方へ訪問。 ・おたより見守り訪問事業 新興住宅地など、若い世代への福祉啓発とつながりづくりを目的に実施。1自治会 131件を訪問。 


◇2年目(平成30年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★地域の課題を調査するため「モデル地域」を設定して聞き取り調査をおこないました。＊斧磨自治会、亀原自治会</p> <p>★地域課題の整理・それに対する活動の企画を検討しました。</p> <p>＊モデル地域の聞き取り内容から、将来的な孤立に関する課題・移動手段に関する課題や子どもたちの通学に関する課題、災害・防災に関する課題が見えてきました。</p> 	<p>★社協事業(プロジェクト関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りサポート会議 この会議では、地域で見守りが必要な方や地域の福祉活動について協議をおこない、住民の皆様にとって身近な地域(自治会単位)での話し合いや活動が大切であることを再確認しました。(24自治会で開催。) ・おたより見守り訪問事業 今年度は、2自治会で189軒を訪問しました。 ・見守り活動報告会の開催 年1回93名参加

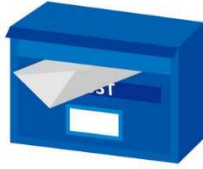

◇3年目(令和元年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★見守りサポート会議で、町内で先進的に取り組まれている事例の紹介をおこないました。</p> <p>＊亀原自治会で豊満地域の取り組みを紹介。</p> <p>＊斧磨自治会で目加田地域の取り組みを紹介。</p> <p>＊長野新町自治会へ、災害・防災を切り口にした地域福祉活動の案内を実施。</p> <p>＊メイトタウン島川自治会で災害・防災関連の話を中心に、地域の状況や課題の聞き取りを実施。</p> <p>★子どもを中心とした見守り啓発活動の検討をおこないました。</p> <p>＊福祉の体験学習を目的とした「子ども民生委員・児童委員」活動を企画し、子どもたちへの福祉意識向上を目指す取り組みとして進めたいと考えています。</p>	<p>★見守りサポート会議でどのようなことに取り組めばよいのかとの声があり、町内の先進事例を紹介する取り組みを始めました。</p> <p>★社協事業(プロジェクト関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りサポート会議 29自治会 ・いきいき見守り訪問事業 14自治会 77名 ・見守り報告会の開催 年1回 53名参加 

◇4年目(令和2年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★新たな見守り活動のしくみ「おたがいさまの見守り活動推進事業」地域において独自に見守り活動に取り組まれているところや、社協のいきいき見守り訪問事業などを活用されているところがあります。見守りサポート会議などで自治会の状況等を話し合っていた中で、見守り訪問に取り組もうかとの話が出てきた際の「きっかけ事業」として、また、現在取り組んでおられる地域については、新たな活動の広がりが持てる活動として企画しました。</p> <p>訪問時には、町内の相談情報や福祉以外の情報なども入れてはどうだろうかとの意見も出ました。</p> 	<p>★モデル事業「子ども民生委員・児童委員」については、亀原自治会・斧磨自治会と調整の相談をするが延期となりました。</p> <p>★社協事業(プロジェクト関連)</p> <p>「おたがいさまの見守り活動推進事業」は、社会福祉協議会事業として取り組むことになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りサポート会議 17 自治会 ・いきいき見守り訪問事業 16 自治会 78 名 ・見守り報告会の開催 年 1 回 32 名

◇5年目(令和3年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★アパートや新興住宅等の住民には、地域とのつながりが少なく、何か困りごとがあっても近隣に SOS を発信することが出来ないのではと考え、そのような方へ福祉の情報を伝えることは出来ないかと協議し、モデル事業を実施しました。</p> 	<p>★モデル事業「自治会組織に加入していない世帯等への見守り啓発活動」を実施しました。</p> <p>プロジェクト推進委員と社協職員と一緒にアパートのポストへ情報入ったファイルを投稿しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アパート 7 か所 110 世帯 

★第3次計画へ引き継ぐ内容(発展や課題など)

- ・見守りサポート会議は、見守り活動や小地域福祉活動、地域の福祉課題の話を住民の皆様と協議できる機会であり、未実施の自治会へも積極的に開催を進めていきます。
- ・SOS の発信できる環境づくり SOS の発信が出来ない方へは、様々な情報を伝えることが大切であります。見守りを進めるための啓発活動に取り組みます。



★第3次計画へ引き継ぐ内容(発展や課題など)

この5年間の取り組みを振り返り、第3次計画に引き継ぐ内容は、緊急時の対応になると思います。


「SOS を発信すること、SOS をキャッチすることの大切さ」を合い言葉に取り組みを開始し、各地域の「見守りサポート会議」に参加、地域での課題が見えてきました。

これからの第3次計画では、戸建て住宅だけでなく、集合住宅の各家庭も訪問し、緊急時に誰も見逃さない取り組みを考えています。

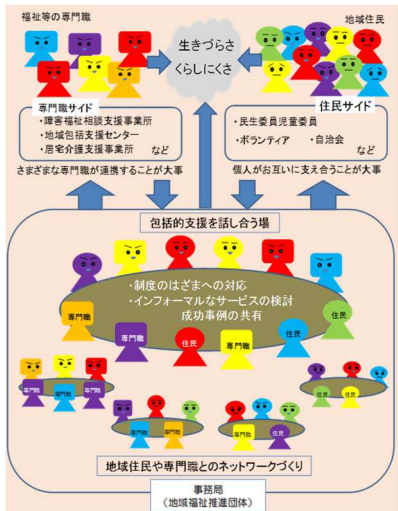
プロジェクト座長より

【くらしサポートプロジェクト5年間の取り組み】

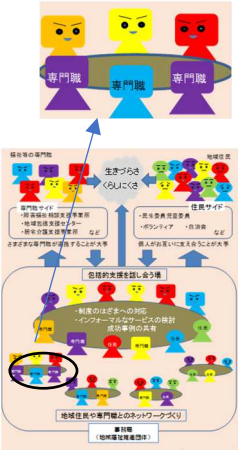

◇1年目(平成29年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★「くらしにくさ」のもととなる「生きづらさ」とは何かを知るために、各分野の専門家から、それぞれの立場から見える現状や課題について話を伺いました。</p> <p>・NPO ぽぽハウス、愛荘町こども支援課、滋賀県立精神保健福祉センターひきこもり支援センター、湖東健康福祉事務所、サントナ学園、県立愛知高等養護学校</p> 	<p>★以下の課題があることに気付くことができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住民の連携」「多職種連携」それぞれを結び付けるネットワークの仕組みがないこと。 ・人々の「生きづらさ」を知るとともに、人々に「広める」「伝える」意識が浸透していないこと。


◇2年目(平成30年度)

取り組んだこと (プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★自分たちの知らないことを知ることができるようにするために、障がい者の高齢化をテーマとして取り上げ、愛荘町内の障がいを持つ高齢者についてのデータ作成(各種手帳交付と介護認定の人数についてのデータ化)を行いました。</p> <p>★ネットワークの仕組みに共通のイメージを持てるように、仕組みのイメージ図を作成しました。</p>	 <p>「これからどのような取り組みが必要なのか」</p> <p>・各制度の相談員が支援できる範囲は限られています。その範囲で対応できないところをどうするのかを検討し、「相談支援者のネットワーク作り」「問題解決に向けた体制づくり」「住民から直接聞く機会と、住民に直接伝える機会を持つ」ことが必要であることが見えてきました。</p>

◇3年目(令和元年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★日常の困りごとに素早く対応できる仕組みづくりに一歩を踏み出すため、愛荘町福祉機関地域連携会議を開催しました。</p> <p>障がい者の高齢化、障がいを持つ高齢者をテーマに相談支援専門員(障がい福祉)、介護支援専門員(介護保険)が互いの経験などを話し、課題や対応策などを検討しました。プロジェクトの委員も会議のメンバーとして参加しました。</p> 	<p>○福祉機関地域連携会議</p> <p>年間3回開催 参加者数延べ39名</p> <p>★プロジェクトの1年としては、テーマが広く、「くらしサポート」という抽象的なものに対しての話し合いが続いていたため、委員相互の考えをすり合わせたり、伝えたりすることの難しさがありました。しかし、机上での話し合いに終わらせるものではないことを確認することができました。</p> 

◇4年目(令和2年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★くらしの課題の解消に向けた具体的な取り組みを行うこととして、プロジェクトの委員を2つの小委員会に分けました。</p> <p>・困りごとに対する支援の仕組みづくりに向けての取り組みについて考えました。</p> <p>「愛荘町福祉関係機関地域連携会議」に参加し、相談員、民生委員・児童委員と意見交換を行いました。</p>  <p>・居場所づくりに向けた取り組みについて考えました。</p> <p>【居場所とは何か】</p> <p>「生きづらさの要因となっている不安や困りごとを抱える方々が、つながりづくり・仲間づくりといったコミュニティが生まれ、人同士の接点となるところ」</p> <p>・町内の居場所の現状を分類し把握しました。</p>	<p>○福祉機関地域連携会議</p> <p>年間2回開催 参加者延べ27名</p> <p>★福祉の専門職(相談員など)と住民(民生委員・児童委員)との意見交換するなかで、制度だけでは対応しにくい「ひきこもり」や「災害」が課題のキーワードとして挙がってきました。</p> <p>★居場所の分類を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民個々と住民個々のつながり こども食堂、当事者支援グループ、趣味サークルなど ・住民個々と自治会などのつながり ふれあいサロン、敬老会、子供会など ・住民個々と専門家(職)のつながり 介護保険デイ、認知症カフェ、就労支援事業所など ・自治会などと専門家(職)のつながり 見守りサポート会議、福祉機関地域連携会議など <p>居場所づくり活動についてまだまだ把握しきれていないことを確認しました。</p>


◇5年目(令和3年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★課題解決の仕組みづくりについて</p> <p>・昨年度参加した関係機関地域連携会議についての評価を行いました。</p> <p>★居場所づくり活動について</p> <p>・活動者(「ぱらでいろ」原さん)の話を伺い、居場所をつくるのか、居場所活動をする方を支援するのか検討しました。</p> <p>・新たな居場所実施に向けて検討を行いました。</p>	<p>★福祉関係機関地域連携会議について</p> <p>・専門職と住民とが一緒に課題について検討、情報交換する場をつくりました。</p> <p>・課題に対して「包括的支援を話し合う場」を設置し、みんなで協働してできることを検討しました。</p>


<p>★第3次計画へ引き継ぐ内容(発展や課題など)</p> <p>つながりをコンセプトに「生きづらさとは?連携とは?」から始まった「くらしサポートプロジェクト」。</p> <p>いろんな分野の方々と意見交換を行い、地域の中で顕在化している課題の抽出を行い、地域住民と関係機関との「ネットワーク」のイメージを具現化する事ができました。その中で見えてきたキーワードは「協働」です。</p> <p>第3次計画では、その協働を具現化させることが大切になります。そのような中「協働」から生まれる活動そのものが、多様性を尊重できる人と人とのつながりを創り出してくるでしょう。</p> <p>「生きづらさ」を明確化し、どのような立場の人でもお互いに支え合える福祉活動を小さな事から創っていきたいと考えています。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">プロジェクト座長より</div>
--

【ボランティアセンタープロジェクト5年間の取り組み】


◇1年目(平成29年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★グループワークを通して高齢者の日常生活での困りごとを抽出するとともに、生活支援ボランティア活動者を養成していくために先進地研修を行いました。</p> <p>★新しいボランティア発掘のため「チョボラ体験事業」「ボランティアカフェ」さらにはボランティアコーディネートを推進するための活動実態調査を実施しました。</p> 	<p>★夏休み期間中に、児童・生徒が気軽に楽しくちょこっと参加できるボランティア活動を進めるため「チョボラ体験」を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みボランティア体験 延べ23名体験 ・サンタクロース訪問 訪問先18世帯 6名 <p>★ボランティアカフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年4回開催施設関係者12名ボランティア77名 <p>★災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施しました。町主催の防災訓練に参加、参集訓練、窓口設置訓練、災害時発電機作動訓練2名</p>


◇2年目(平成30年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★生活支援ボランティア活動の組織化に向けて地域包括支援センターと連携し生活支援サポーター登録者の研修会に参画しました。</p> <p>★災害ボランティアセンター設置に向けて住民が主体となる災害ボランティアセンターの役割を中心に行政とも一緒に話し合いを行いました。</p> 	<p>★チョボラ体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みボランティア体験 延べ45名体験 ・サンタクロース訪問 6名 <p>★ボランティアカフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> 年5回開催施設関係者15名ボランティア108名 <p>★町主催の防災訓練での災害ボランティアセンター設置運営訓練参加へ向けての事前打ち合わせ会を開催しました。</p> <p>※町主催の防災訓練は台風21号により中止</p> <p>★災害支援ボランティアの今後の活動について話し合いを行いました。6名</p>


◇3年目(令和元年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★ボランティア活動・ボランティアセンター啓発活動やボランティア活動者の交流の場の必要性について取り組みや工夫できることについて話し合いました。また、ボランティアセンターの啓発のために親しみやすいボランティアセンターの愛称を検討しました。</p> <p>★災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施と設置運営マニュアルづくりを開始しました。</p> 	<p>★チョボラ体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みボランティア体験 延べ61名 ・サンタクロース訪問 7名 <p>★ボランティアカフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> 年4回開催施設関係者3名ボランティア84名 <p>★町主催の防災訓練に参加し、災害ボランティアセンター設置運営訓練(被災ニーズ受付係・ボランティア受付係・マッチング係に分かれ実際運営)を実施しました。</p> <p>ボランティア7名 職員5名</p>

◇4年目(令和2年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★コロナ禍におけるボランティア活動について意見交換など行い、コロナ禍の中でも進めていくこと、工夫できることなどを話し合うとともに、これからのボランティアセンターの啓発についても検討を行いました。</p> <p>★災害ボランティアセンター設置運営訓練(自治会協力のもと地震を想定)を実施しました。</p> 	<p>★チョボラ体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸能ボランティア体験 <p>参加者の趣味や特技等を活かして、参加者が演芸等をしている様子を映像化して町内の福祉施設等に貸し出しました。1個人 5団体体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンタクロース訪問 7名 <p>★ボランティアカフェ</p> <p>年2回開催 37名</p> <p>★災害ボランティアセンター設置運営訓練(島川自治会に協力いただき、地震被害を想定し、高齢者6世帯を訪問して被災ニーズ調査)を実施しました。</p>

◇5年目(令和3年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★グループワークを通してコロナ禍でのサロン活動への取り組みについて・ボランティアの発掘に向けての取り組みについて検討しました。</p> 	<p>★チョボラ体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わんぱくひろばでお手伝い体験 <p>小学生6名 中学生7名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス体験 with 花みずきさん <p>小学生6名</p> <p>★ボランティアカフェ</p> <p>年1回開催 19名</p>

★第3次計画へ引き継ぐ内容(発展や課題など)


今後のボランティア活動は、コロナ禍が終息に至るまでは三密を守りながらサロン活動などが出来る方法を検討し、活動者への支援することが必要です。

今後の活動として、①新しいボランティアの発掘は、「ちょこっとボランティア体験」事業などの継続、②生活支援ボランティアは、高齢化が進む中で活動の体制としくみについて、他の優良事例も参考に検討を進める。③災害ボランティアセンターについては、設置運営訓練など活動できる内容を検討するとともに、行政と連携し設置運営マニュアルの作成を進めていきたいと考えています。


プロジェクト座長より

【福祉教育プロジェクト5年間の取り組み】


◇1年目(平成29年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★《プロジェクト推進のイメージを共有し、福祉教育の目的・伝えていく内容の検討を行いました》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「みんなの命かがやく、支え合えるしあわせな地域づくりを目指して、福祉教育を行なっています」 <p>★《各学校・地域での福祉学習の現況を共有しました》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学校の「総合的な学習全体計画」や本会のコーディネート状況等をもとに現況を共有しました。 ●各学校への聴き取り訪問に向けて、質問内容を検討しました。 	<p>★《社協事業(プロジェクト関連)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちへの福祉学習 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校6回、中学校1校1回、高校1校4回の実施。 ●地域福祉活動に関する研修会等への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・4自治会。 ●愛の郷サマーナイトキャンプ <ul style="list-style-type: none"> ・年1回・小学生8名参加。 ●福祉ふれあい講座:年1回・35名参加。


◇2年目(平成30年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★《各学校への聴き取り訪問を行いました》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校のプログラム・先生に余裕がなく、「今実施されている学習にどう関わっていくか」がポイントであることを確認しました。 <p>★《各学校の福祉学習の取り組みを把握・整理・見える化を行いました》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●福祉学習現場への推進委員が視察しました。 ●「社協職員が指導・調整している」、「学校が独自で指導・調整している」福祉学習を分類した一覧表を作成しました。 <p>★《既存の福祉学習支援メニューのリニューアルを行いました》</p> 	<p>★《プロジェクト》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して活用できる「福祉学習支援メニュー」が完成しました。 <p>★《社協事業(プロジェクト関連)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちへの福祉学習 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4校12回、中学校1校1回、高校1校4回、学童1箇所1回の実施。 ●地域福祉活動に関する研修会への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・3自治会 ●あいしょう福祉探偵団 <ul style="list-style-type: none"> ・年1回2日間・小学生20名参加。 ●福祉ふれあい講座:年2回・197名参加。



◇3年目(令和元年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★《「大人への福祉意識を高める取り組み」を検討しました》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生産年齢の世代への関わり・働きかけの手法を検討し、企業の社会貢献活動などの取り組みを把握するところから進めていくことを確認しました。 ●企業への聴き取り訪問に向けての質問内容を検討しました。 <p>★《企業への聴き取り訪問を行いました》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)平和堂アモール愛知川店、(株)ダイナム滋賀愛知川店への社会貢献活動などを中心とした聴き取り訪問を実施しました。 <p>★《各学校を訪問し、新・福祉学習支援メニューの配布・PRを行いました》</p> <p>★《福祉教育連絡会議を開催しました》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学校の担当教諭との、福祉学習・体験内容の振り返りを中心とした情報・意見交換会を実施。 	<p>★《プロジェクト》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長らく休止していた福祉教育連絡会議を再開し、各学校の担当教諭と福祉学習の振り返りなどができました。 <p>★《社協事業(プロジェクト関連)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちへの福祉学習 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4校12回、中学校1校1回、高校1校4回、学童1箇所1回の実施。 ●地域福祉活動に関する研修会への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・4自治会 ●あいしょう福祉探偵団 <ul style="list-style-type: none"> ・年1回2日間・小学生23名参加。 ●福祉ふれあい講座:年2回・92名参加

◇4年目(令和2年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★<u>「当事者(障がい者)のを知る・理解する機会」への取り組み・検討を行いました</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎講師に障害者支援施設の相談員を招き、精神障害や接し方などについて学ぶため、推進委員を対象とした研修を実施しました。 ◎地域(自治会)に向けた取り組みを検討しました。 <p>★<u>福祉教育連絡会議を開催しました</u></p> 	<p>★<u>社協事業(プロジェクト関連)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎子どもたちへの福祉学習 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4校16回、高校1校1回の実施。 ◎地域福祉活動に関する研修会への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・2自治会 ◎あいしょう福祉探偵団 <ul style="list-style-type: none"> ・年1回・小学生12名参加。 ◎福祉ふれあい講座:年1回・32名参加

◇5年目(令和3年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>★<u>「障がい」について知る研修・体験メニューを作成しました</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎地域(自治会)の研修等に提案できるメニューが完成し、障がいのある方への理解を広げていく土台をつくりました。 <p>★<u>「当事者(障がい者)のを知る・理解する機会」への取り組み・検討を引き続き行いました</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎推進委員がふれあい・コスモス両作業所を訪問し、利用者さんと一緒に仕事・作業を行うなどの交流を実施しました。 ◎メニューの活用方法を中心に、地域(自治会)に広げていくためのモデル自治会への働きかけや手法を検討しました。 	<p>★<u>プロジェクト</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎今後も継続して活用できる「障がいについて知る研修・体験メニュー」が完成しました。 

★第3次計画へ引き継ぐ内容(発展や課題など)

◎子どもたちの福祉学習支援メニューをリニューアル

⇒現存の福祉学習支援メニューは社協が調整・指導できる内容が中心となっています。福祉学習・体験に協力・参加いただける関係機関・団体などに働きかけ、町域の支援メニューにリニューアルしていきます。

◎「障がいのある方への理解を広げる」取り組み

⇒4年目(令和2年度)から話し合いを始め、メニューの作成や関係者への聴き取りなどの土台をつくることができました。今後、当事者(障がい者等とその家族)の活動支援者にも関わっていただき、より地域に浸透していくための活動に取り組んでいきます。



「学校・地域・企業・当事者 すべての方が関わる福祉教育」を最終目標にこの5年間取り組んできました。学校を回って実態を把握することから始めた5年前のスタートから、「福祉にふれる体験・学習支援メニュー」の各学校への定着、当事者にも関わってもらえる自治会対象の「障がいについて知る研修・体験メニュー」を作り上げるまで、いろいろな話し合いを重ねてきました。コロナ禍のために、地域や企業への働きかけが充分にできなかったため、第3次計画では町民の福祉活動への積極的な参加、企業や若い世代への働きかけにも力を入れていきたいと思っています。

プロジェクト座長より





【地域を守る災害支援プロジェクト5年間の取り組み】




◇1年目(平成29年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター設置訓練の実施 ・災害ボランティア養成講座の開催 ・愛知川ニュータウン自治会と松尾寺南自治会をモデル地区に指定し、自治会役員を中心に災害、防災をテーマとして話し合いの場を持つことから始め、住民の災害に対する意識や行動などの地域の現状を知り、課題を共有しました。  	<ul style="list-style-type: none"> ・町主催の防災訓練に事務局職員2名が参加し参集訓練、窓口設置訓練を実施 ・養成講座2回開催 70名が受講 災害ボランティア 8名が登録 ・災害、防災をテーマに話し合いの場を持ち、災害時等における地域の現状を知り、10年後、20年後の地域のために、今からできることを検討しました。 *愛知川ニュータウン自治会推進会議 1回 *松尾寺南自治会推進会議 2回


◇2年目(平成30年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター設置訓練の実施 ・被災地へのボランティア活動の実施 ・災害ボランティア養成講座の開催 ・愛知川ニュータウンでは、住民の災害時の行動や避難情報の収集について、各世帯の行政防災無線の設置状況に関するアンケート調査の実施に向けて検討しましたが、様々ご意見もあり実施には至りませんでした。 ・松尾寺南自治会では、台風21号による地域の被害状況や避難状況を役員間で共有するとともに、土砂災害等の危険箇所の確認を行ない防災マップを作成しました。  	<ul style="list-style-type: none"> ・町主催の防災訓練の参加に向けて、ボランティアセンター設置、参集訓練、ニーズ調査等訓練を予定していたが、台風21号の影響により中止となりました。 ・被災地支援活動に、京都府宮津市、岡山県倉敷市へ災害ボランティアを7名派遣 ・養成講座2回開催 49名が受講 災害ボランティア 登録者数20名 ・愛知川ニュータウンでは、住民の災害に対する意識の向上を図るための啓発活動として、啓発チラシの作成や防災マップの全戸配布に向けて協議を行ないました。 *愛知川ニュータウン自治会推進会議 2回 *松尾寺南自治会推進会議 3回



◇3年目(令和元年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター設置訓練の実施 ・被災地へのボランティア活動の実施 ・災害ボランティア養成講座を開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。 ・愛知川ニュータウンでは、住民への防災意識の向上を図るための啓発活動について協議を行なうとともに、防災訓練として消防職員を講師に招き、地震発生時の対応や日頃からの備えなど学ぶ場を持ちました。 ・松尾寺南自治会では、災害時など緊急時に活用できる住民台帳の整備に向けて協議をしました。  	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター設置訓練では、町防災担当職員の参画と、災害ボランティア7名が訓練に参加。 ・被災地支援活動に長野県長野市へ被災地災害ボランティアを7名派遣 ・松尾寺南自治会では、災害時における避難行動に関するチラシや地域の危険箇所を印した防災マップや緊急連絡先一覧表を全戸配布し、住民の防災意識の向上に努めました。また、防災訓練では高齢者や障がいのある方も参加されました。 *愛知川ニュータウン自治会推進会議 2回 *松尾寺南自治会推進会議 2回 

◇4年目(令和2年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>・災害ボランティアセンター設置訓練として、島川自治会のご協力をいただき、高齢者世帯6世帯を対象に安否確認、ニーズ調査等の訪問活動を実施しました。</p>  <p>・愛知川ニュータウンでは、自治会が抱える課題を共有しながら、住民への災害に対する意識の向上を図るための啓発チラシを全戸配布するとともに、防災をきっかけとした地域福祉活動の研修会を実施しました。</p> <p>・松尾寺南自治会では、自治会内での災害時等避難行動に支援を必要とする方を把握するため、申請方式にて支援の意向調査を実施しました。また、災害時など緊急時に活用できる住民台帳の整備に着手しました。</p>  	<p>・災害ボランティアセンター設置運営訓練では、自治会役員、災害ボランティア、ボランティアセンター運営委員の計16名が参加し、災害に備えて、日頃から取り組んでいることなどを聞かせていただきました。</p> <p>・愛知川ニュータウン自治会では、研修会に役員、組長13名が参加。 「日頃からの備えや隣近所の声掛けの必要性を感じた」との感想をいただきました。 また、災害時避難行動に支援が必要な方を把握するため、申請方式にて意向調査を実施し、4名の方が申請されました。</p> <p>・松尾寺南自治会では、災害発生時に備え、避難警戒レベルに応じた役員の初動体制(役割分担表)を整備されました。</p> <p>*愛知川ニュータウン自治会推進会議 5回 *松尾寺南自治会推進会議 4回</p>

◇5年目(令和3年度)

取り組んだこと(プロジェクト・社会福祉協議会)	課題・成果
<p>・災害支援ボランティア養成講座を開催しました。</p>  <p>・愛知川ニュータウン自治会では、自治会で災害時等避難行動に支援を希望された方の状況把握と、当事者や家族の思いを聞き取るための訪問活動を実施しました。当事者や家族からの聞き取りの中で、個人情報の開示が課題として見え、町行政が進めている「避難行動要支援者登録」への移行を含め、今後の取り組み方について検討を進めました。</p> <p>・松尾寺南自治会では、災害時や緊急時に活用できる住民台帳を整備し、気になる世帯などの住民情報を共有しました。また、避難警戒レベルの改定に伴い役員の初動体制の見直しを図りました。</p>	<p>・災害支援ボランティア養成講座 2回開催 受講者延べ数85名</p>  <p>・愛知川ニュータウン自治会では、災害時等避難行動に支援を希望された方々から思いを聞くことができました。 その中で、個人情報の開示や「隣近所の方に協力を求めるのは申し訳ない」という声もあり、普段から顔の見える関係づくりや、隣近所に遠慮なくSOSが発信できる地域づくりが必要であることがわかりました。</p> <p>*愛知川ニュータウン自治会推進会議 5回 *松尾寺南自治会推進会議 6回</p>

★第3次計画へ引き継ぐ内容(発展や課題など)

- ・みんなが10年後、20年後の地域を想定し、防災をテーマとして福祉の防災活動について話し合う場を広げていくこと。
- ・誰もが災害時にSOSの声が発信できる地域を目指した取り組みを進めていくこと。
- ・地域での自主的な活動を継続していくための人材育成を進めていくこと。

*「自分たちの所は大丈夫!」「今まで被害が出ていないから…」と過信するのではなく、あらゆる自然災害に対して、「誰も見逃さない」「自分たちの地域は自分たちで守る」そんな地域を目指していくためにも、地域の防災活動を進めるリーダーの存在が鍵となっていきます。そのためにも、関係機関と連携しながら、防災活動の福祉防災リーダーを育成し、自治会役員や福祉防災リーダーを中心に、地域の防災活動や要配慮者が安心して避難できる支援体制などについて考え、取り組んでいくことがこれからの地域には必要だと思っています。

プロジェクト座長より